

平成 29 年 7 月 貫井図書館指定管理者連絡調整会議 議事要録

日時	平成 29 年 7 月 27 日（木） 14 時 00 分から 14 時 40 分まで
場所	光が丘図書館 第一会議室
出席者	<p>(1) 光が丘図書館（以下「光」） 光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長・係員（2）、事業統括係長、子供事業統括係長</p> <p>(2) 貫井図書館指定管理者（株式会社図書館流通センター）（以下「貫」） 貫井図書館長、同館業務従事者（2）、本社スタッフ（1）</p>
内容	<p>① 施設管理について</p> <p>（光）自動販売機の設置要望について →（貫）利用者サービスにもなるので自動販売機の設置をお願いしたい。実際に利用者から自動販売機について聞かれることがある。美術館との共有スペースは難しいため、現在、小型家電回収ボックスが置いてある場所で検討したい。小型家電回収ボックスは、エントランス付近にあり、本の混入もあるので、別の場所に置いた方がよいと思う。</p> <p>（光）夏休みに視聴覚室の学習室としての開放は行うか。 →（貫）日中は一般の団体利用もあるため開放しない。</p> <p>（光）貫井図書館は、対面朗読数が多い。そのため、視聴覚準備室も対面朗読室として使用できないか検討する。</p> <p>② 職員体制・会計収支について</p> <p>（光）産廃処理の内容について →（貫）視聴覚室の机を交換したため、古い机を処分したもの。</p> <p>③ 事業計画について</p> <p>（光）7月に、視聴覚室から出てきた利用者の声がうるさいとの苦情があったが対応等教えてほしい。 →（貫）視聴覚室から出てきて、話しながら閲覧室に入ってくる人がいる。廊下で発生した声が予想以上に耳に入ってくるのだと思う。基本は静かにしていただくよう、注意しているが、視聴覚室を利用している団体にもマナーについてのお願いをしようと思っている。また、美術館に行くエレベーターを待っている人の話声も問題になることがある。そのため、美術館とも相談し、廊下やエレベーターに注意喚起の掲示をしたいと考えている。</p> <p>（光）5月開催の「地域の歴史を考える講座-豊島一族の興亡-」について →（貫）練馬区の歴史に造詣の深い日本史家の方を講師にお迎えした。伝説の話ではない歴史上の豊島氏の話の初心者向けにお願いし、講師が実地調査をして撮影した写真や、収集した古い写真をスクリーンに映しながら話をする形で行われた。貫井図書館では和装資料のデジタル化を実施しており、デジタル化事業や地域の歴史に関心を持ってもらうという観点から実施した。</p> <p>（光）6月開催の「認知症サポーター養成講座-家族が認知症になっても困らないために-」について</p>

→（貫）図書館スタッフ向けには実施実績があるが、利用者向けとしては初めて実施した。同様の講座は、近隣にある高齢者相談センターでも実施している。そのため、参加者が集まるか不安だったが、高齢者施設とは利用者層が異なるため、30代、40代と比較的若い世代の参加が見られ、講師からは「今まで受講していない層の方々に講座を開催できた」と評価された。また、講座終了後のアンケートの書き込みも多く、身近で切実な問題となっていることが感じられた。参加者からは、ステップアップした講座を要望する声もあったため、今後検討していく。

（光）6月開催の「ねりまで本をつくる、本をつなぐ～練馬区出版社展示会～」について

→（貫）図書館のせいで本が売れないとの出版社からの声もあるが、図書館が支えている部分もある。出版業界全体を図書館でも盛り上げていきたいと思い、4館合同で企画した。区内出版社の紹介パネルや本の展示は、じっくり見る人が多く、とても感心があることが分かった。小さいながらも頑張っている出版社が多く、身近に感じていただいたと思う。

ギャラリートークでは、（株）榎本事務所の所属作家でもある榎本氏をお招きし、作家になった経緯や自社の歩み、出版業界についてのトークショーを行った。天候が悪く参加者は多くなかったが、大変和やかな会となり楽しんでいただいた。

（光）館内の案内図がわかりにくいとの苦情について

→（貫）できる限り見やすいようにと工夫し、掲示用と配布用を作成している。小さいスペースにどこまでの情報を盛り込むかが難しい。

#### ④ 児童サービス事業について

（光）図書館利用者向け託児サービスの評判はどうか。

→（貫）大変好評で毎週実施してほしい等の声がある。

（光）出張おはなし会について

→（貫）月に一回程度、地区区民館、幼稚園、保育園、子育てのひろば「びよびよ」等で実施している。

（光）「調べる学習コンクール」は募集が9月からだが、前段の取り組みは何かしているか。

→（貫）来館者より問い合わせがあり、児童イベントの際に案内をしている。また、支援校にも話をしているので、学校単位でまとまった提出をいただけるかもしれない。

（光）「染物体験！オリジナルトートバックを作ろう！」の実施目的は何か。

→（貫）中学生や高校生の来館が少ないため、この世代に来てもらうきっかけとなることを目的とした。小学生を対象にしたら、もっと集まると思うが、あえて対象を限定している。当日は、工作の図書資料が図書館にあることをPRしたほか、作ったトートバックは来館時に図書資料を入れてもらえるように考えた。図書館をほとんど利用したことがないという子も2名参加し、大変好評だった。